



# くすりと健康

一般社団法人  
神戸市薬剤師会

## 漢方薬を構成する 生薬の役割

医薬品には高血圧症、感染症など効果を示す適応症があります。漢方薬の適応症は、「体力のある…」「手足の冷えを…」など感覚や体質が基本です。検査機器に頼れず、病状も数値化できない時代から受け継がれる伝統医学ならではの考え方も見られます。漢方薬は原則2種類以上の生薬から構成されるため、一般にドクダミ・ゲンノシヨウコなどは、漢方薬ではなく民間薬に分類され、体質も考慮されません。適当に生薬を組み合わせればよいわけでもなく、膨大な歴史と経験の中でその多くが淘汰されました。現在の漢方薬は、効果的で安全な厳選品といえるかもしれません。

### 生薬の加減

葛根湯から麻黄と葛根を抜くと桂枝湯に変わり、薬効も変わります。麻黄は喘息治療薬エフエドリンを含む

み、葛根は発汗作用や鎮痛作用のある成分を含みます。従って体力・症状が強い人には葛根湯を用います。漢方薬の独特かつ基本的な考え方です。

### 構成生薬の役割変化

漢方薬の構成生薬は、それぞれ重要な性質が異なります。これを「君臣佐使」といい、中心生薬を「君薬」、それを補助し強める「臣薬」、君臣薬を調節・補助する「佐薬」、「使薬」から構成されます。

たとえば葛根湯では、葛根が君薬、麻黄が臣薬、桂皮と芍薬が佐薬、甘草と生姜と大棗が使薬とされます。葛根はこりや痛みを取り、麻黄と桂皮は発汗を促します。芍薬が皮下の毛細血管や汗腺を保護し発汗を調節し、甘草は味を調え、生姜と大棗が体力を増強します。しかし、桂枝湯では、桂皮が君薬、芍薬が臣薬、甘草が佐薬、生姜と大棗が使薬とされ、生薬の加減により、構成生薬の役割が変わる場合があります。

### 生薬の加工

料理にも使うシヨウガ(生姜)です

が、乾燥させた「乾生薬」は胃薬として使われ、蒸して煮て乾燥させた「乾姜」は体を温めます。同じシヨウガでも加工により効能が変わります。

また「附子」は、日本三大有毒植物のひとつトリカブトの塊根を乾燥させたものですが、毒性を弱めた「白河附子」は鎮痛作用が強く、さらに毒性を弱めた「加工附子」、「修治附子」、「炮附子」は温める作用を期待して使います。

### 漢方薬の決定

漢方薬をサッカーにたとえると、対戦相手(治療の対象)によって選手(生薬)が入れ替わりますが、チームメイト次第で個々の役割も変わり、相性の良し悪しもあります。毒性の強い選手も教育次第です。足し算引き算といった単純な考え方は病気に勝てません。選手選抜とポジション決定、人材を見極める力が監督に求められるように、漢方薬の使い分けには漢方流の診断が必要です。

(長田区 野瀬病院薬剤科)

原 克樹